

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者氏名：80歳代 女性 要介護

病名：左側頭葉梗塞 アルツハイマー型認知症

利用サービス：入所

経過：2年程前に外出先で転倒、緊急搬送されました。全身状態は安定していましたが、認知機能の低下を認め、同じことの繰り返しやお金・洋服への執着といった言動が見られたため、当院回復期へ入院の運びとなりました。約3ヶ月のリハビリを経て、身体機能の向上を認めましたが、退院先についてご家族と本氏とで難渋したため、ライフサポートねりまへ入所されました。

内 容

入所当初の身体機能について、バランス機能は良好でフリーハンド歩行も問題なく可能でしたが、新しい環境になったことでそわそわされることが多かったです。また、運動には消極的で「できません」と発言、認知機能では思考耐久性の低下によって回復期病棟で取り組んでいた日課の水やりには「無理やりやらされています」とおっしゃり、受け身の姿勢でもありました。

多職種で意見交換をして、自主性を持って自己決定ができること、施設内での生活で楽しみを見つけることを目的に、イベント毎に装飾レクへの協力を依頼して他利用者と協力しながら取り組む役割を提供しました。

根気よく繰り返し声かけをしていく中、入所から1ヶ月経過する頃には、他ご利用者と協力して製作に取り組まれ、「この部分は私が協力して作ったんです」と笑顔で教えてくださるようになりました。

そして、2ヶ月経過する頃には、「新しいお花を買って育てたい」とおっしゃり、リハビリ内でお花屋さんに行ってお自身でお花を選び、ご自分で植え替えを行いました。それからは、「お花に水をやりたいです」と能動的な発言が見られ、日課となりました。

毎月の装飾レクでは、月が替わると「何かやることはありますか?」と職員に声をかけてくださるようになり、お願いすると周囲の方へ「一緒にやりましょう」と笑顔で声をかけられるようになりました。自主トレーニングに対しても自身で設定した歩数となるように毎日歩数チェックをしながら積極的に取り組まれました。

チームでどのようにすればご本人らしく過ごせるかを考えて、施設での役割や楽しみとなる活動を提供したことで、入所以前の自主性のあるご本人らしい生活を送る手助けができた事例となりました。

●セラピスト：自主トレーニングや歩数計と歩数表の導入、お花への水やりといった運動や余暇時間の

充実を図った。

● 看護師・ケアワーカー：ご本人の意思決定支援から積極的に他者交流ができるようになるまで、装飾のお手伝いや他ご利用者との製作活動による声かけを行い元気を取り戻すサポートを行った。